

# 活動紹介

## = ヨシ焼きとぜんざいが春を呼ぶ =

3月5日(土)、恒例となったヨシ焼きが行われました。今年は4haのヨシ原のうち、西側の約2haが焼かれました。地域の人や一般の来園者など100名ほどの人々の見守る中、午前10時公園職員によって着けられた火は、まだ肌寒い風に乗って広がり1時間程で定められた区域を焼き尽くしました。

平成20年に始まったこの行事も現在は公園に春を呼びイベントとして欠かせないものとなっています。

全ての作業が終わったあとと振舞われる葦の会特製のぜんざいも、春を呼ぶ味として評判を呼んでいます。



## = 悩める環境サポートチーム =

チーム設立時から10年。「望ましい公園の将来図はわれわれの手で」と活動を続けているが、今年度はなんだか活躍していないような気がする……と、あるメンバーが浮かない顔をしていた。調整池やトンボ池の整備については自然の要求とボランティアの日程とのミスマッチが重なったり、オオアカウキクサの発生が例年に比べ少なかったりなどと出番が減っている。公園や会の行事に参加することでボランティアとしての矜持を保っているが、チームの特性を生かした活動を模索する悩み多い春である。

## = 活動を振り返って =

年度初めに予定した活動目標をクリアし、年度末の今、各活動の内容を詳細に検討してみた。

きらら浜自然観察公園春まつりを皮切りに夏休み子ども早朝観察会、秋のふれあいまつり、冬のクリスマスリースを作ろうなど来園者の皆さんと直に接する行事。そして勉強会、チームミーティング、研修旅行、懇親会など会員同士の交流を目的とした行事など、多岐にわたる取り組みをして来た。年を重ねるごとに活動に対する自信がついてきているように思われるが、自信に寄り掛かったマンネリ化に陥ることなく、葦の会の基本理念に沿った活動を心がけねばならない。8月に行われた世界スカウトジャンボリーがその後どのように公園と葦の会の活動に影響するかも気にかかっている。

ショートプログラムチームは昨年度に続き新作パネルシアター「夢見るカブ子ちゃん」を発表した。この作品はまだ改善の余地を残すものの、煩雑な新作の発表に毎年チャレンジするチームメンバーの意欲は特筆に価する。